



「TAYASUのカーボンドレジット活用戦略」

持続可能な成長への取り組み

環境配慮型ビジネスの未来を探る具体的手法

- 金属加工で価値を創造する -
株式会社TAYASU



構成

- 1 会社概要
- 2 カーボンクレジットの基礎知識
- 3 燐炭機が出来るまで
- 4 燐炭機でできること
- 5 カーボンクレジット活用戦略
- 6 結論

会社概要

会社名	株式会社TAYASU
所在地	福井県福井市北檜原町13-26
創業	1972年4月創業（53年）
従業員数	7名(パート1名、実習生2名)
代表者	田安 繁晴
資格・実績	鉄工構造物一級技能士、2級建築士など
主要取引先	ゲンキー・信越化学エンジニアリング・住友林業

開発事例



レジ袋用サッキング台



放射能測定器
専用運搬台車



足踏み式
アルコール除菌スタンド

製作事例



螺旋階段



移動式 薪オーブン



アルミ製キッチンコンテナ

カーボンクレジットとは何か

カーボンクレジットの定義

カーボンクレジットは温室効果ガス排出削減量を数値化し取引可能にした単位です。

企業の利用方法

企業は排出権取引やオフセットにカーボンクレジットを活用し環境負荷を管理します。

環境と経済の調和

カーボンクレジットは環境保全と経済活動の両立に貢献する重要なツールです。

企業におけるカーボンのクレジットの役割

CO2排出量削減

企業はカーボンのクレジットを使い、CO2排出の削減目標を効果的に達成しています。

環境価値の向上

カーボンのクレジットは企業の環境価値と社会的責任を高める役割を果たします。

リスク管理とブランド強化

戦略的資産としてカーボンのクレジットはリスク管理とブランド価値向上に貢献します。

有機農業を目指す農家さんのニーズ

- ・土を良くするために**もみ殻燐炭**を田んぼ施用したいが購入コストがかかる。
- ・野焼きが難しくなり、もみ殻の処分に困っている。



- ・自分の田んぼで収穫したもみ殻を**燐炭**にして田んぼに施用できないか。



【農家さんの手が届く、燐炭製造機は作れないか？】

東北メーカーとの出会い



中部北陸での製造・販売ができる会社を探していた。

製造のキャパが足りない。運搬コストが高い。メンテナンス対応が難しい。



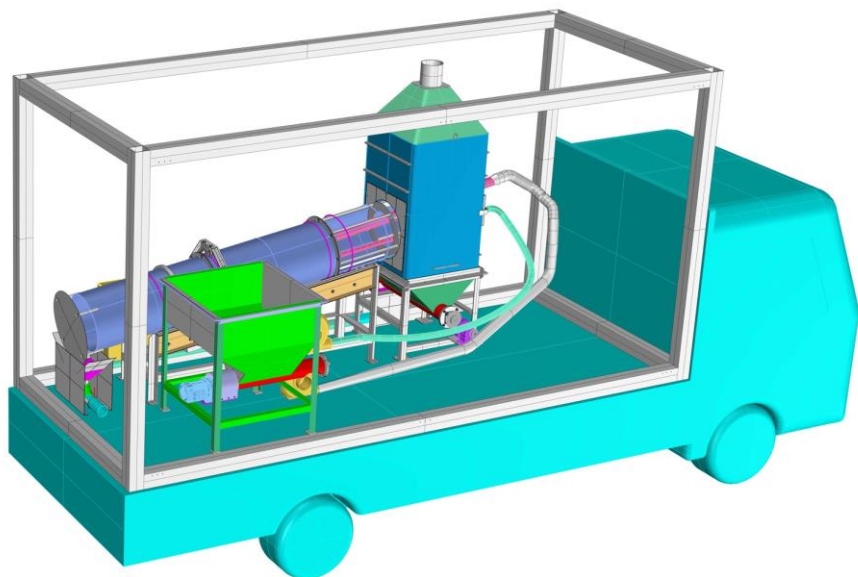
製造と販売のライセンス購入、製造開始。

リバースエンジニアリング+付加価値



- ・ リバースエンジニアリングによる仕組みの理解。
- ・ 耐熱仕様にするための材料見直し。
- ・ 搬送装置の簡略化。
- ・ アルミ箱によるパッケージ化。

もみ殻燐炭製造機の仕様



燐炭機公式サイト

- ・ **移動型設計:**

コンテナ内に設置されており、トラックでの運搬が可能。

- ・ **構造:** ロータリーキルン式

- ・ **サイズと重量:**

コンテナサイズ: W4290×D1770×H2260

総重量: 約1200kg

- ・ **動力:** 1.5KW 100V

- ・ **燐炭製造能力:**

約100kg/1日 (8時間運転) 1立米

もみ殻燻炭製造機にできること

- ・ **低コスト導入:**

プラント型燻炭製造機に比べ、**10～20分の1の費用**で導入が可能。

- ・ **共同使用が可能:**

移動型設計であることから、複数利用者での使用や、多拠点での使用が容易。
また**GPSを搭載**しており、どの場所でどのくらいのバイオ炭を製造したか確認が可能。

- ・ **環境負荷が少ない:**

1.5kW 100Vで動作するため、ガソリン・石油などの化石燃料と比べエコである。

- ・ **バイオ炭品質証明書を取得済み:**

約100kg/1日の燻炭製造能力があり、自社利用だけでなく**バイオ炭の販売**や**カーボンクレジットの取得、販売**も可能。

農業従事者に対しての戦略

- 燃やしていた籾殻を自社でバイオ炭にし、土壌改良剤として利用できる
→廃棄コスト削減、および燐炭購入費用の削減（1haあたり約6.9万円）
- 自社でバイオ炭を使用する以外に、近隣農家などにバイオ炭を販売できる
→米収穫後の新たな収益源となり得る
- カーボンクレジットの創出
→地域の企業などへの販売により収益を得ることが可能

企業に対しての戦略

- ・ カーボנקレジット取得が可能
→カーボנקレジットを購入する必要がなくなる（または減らすことができる）
- ・ 中小企業経営強化税制などの利用により節税対策も可能
→申請が通れば一括償却が可能となる。
- ・ 燐炭製造機を所有し、農家に貸し出すことで地域貢献ができる
→例として、カーボנקレジットは自社で取得、バイオ炭は農家が使用、
使用料を徴収するなど、工夫することで実質コストをかけずに地域貢献が可能。

**もみ殻燐炭製造機で、
地域の皆様に喜ばれるCSR活動が可能！**

自治体に対しての戦略

- ・ カーボンクレジット創出者となることができる
→自治体が所有、農業従事者などに使用してもらうことができ、事業化も可能。
- ・ カーボンクレジット売却益により、投資金額の回収(または軽減)が可能
→さらなる省エネ事業や農業振興への投資も可能。将来的に歳入の増加が見込める。
- ・ 地球温暖化対策、SDGsへの積極的な団体としてのPR効果
→持続可能な地域づくりの好事例となり、他の自治体との差別化になる。

もみ殻燐炭製造機なら、
補助金等活用で実質歳入増 + 自治体の魅力もUP！

結論

カーボンクレジット活用

カーボンクレジットを創出し環境負荷を効果的に低減します。

企業価値の向上

環境対策を通じて企業価値の向上を実現します。

持続可能な成長

今後も持続可能な成長に向けて多様な取り組みを推進します。